



令和6年6月12日

研修だより 14号

教師としての成長②

小笠原康晃

6月5日（水）の放課後、牧野先生が校長室の扉をノックしていました。

自分の授業について、学ぶために校長と話し合いをされました。

自分の授業を振り返ることは、簡単なことではありません。
いろいろな先生と話をしていく中で、自分の授業の全体像がはっきりと見えてきます。

「ああすればよかった。」

「こうすればよかった。」

話し合いをしていく中で、このような気持ちが高まっていきます。

「自分に足りないところがあった。」

「もっとこうした方がよかった。」

改善点がだんだんと明確になってきます。

話し合いをするために、いろいろな先生に声を掛けます。

声を掛けることがおっくうになります。

しかし、それでも声を掛けます。

この行動が大きな成長に繋がります。

このような経験が前号で紹介した「省察」という経験です。

省察をすることが、一番教師の成長に繋がります。

棋士の世界で言う「感想戦」というものです。

反省することを通して、次回以降の経験に活かすものを学びます。

日常的な「省察」ができれば、日々の成長に繋がります。

日常的な「省察」は、「対話」を通してすることができます。

学級経営のこと。授業のこと。生徒指導のこと。

同僚の先生と話をすることで、自然に自分の実践を振り返ることになります。

このことも「省察」です。

日々の対話こそが、成長に繋がる行動だと考えています。